

第4回北海道地方会 活動報告

開催日：平成27年10月24日（土）

会場：手稲溪仁会病院 溪仁会ホール

平成27年10月24日（土）手稲溪仁会病院にて北海道地方会を開催致しました。

「つなぐ・繋がる チーム医療の未来へ～一人ひとりがチーム医療の架け橋」をテーマとし

会員58名、非会員123名、計181名の方にご参加いただくことができました。

一般演題では6名の実務者にご発表いただきました。

札幌中央病院 高沼智香さんより「チーム医療の一員として～当院の医師事務における深化・進化・新化～」

北見赤十字病院 萩原 淳一さんより「メディカルクラークの貢献度～業務内容を通して～」

北海道大学病院 渡辺 玲子さんより「当院におけるクラーク業務の現状と問題点」

釧路孝仁会記念病院 千葉 沙矢佳さんより「業務改善に向けての取り組み」

札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル 木村 求未さんより「メディカルクラーク～導入から現在～」

市立函館病院 久保 柴乃さんより「救命救急センターにおける医師事務作業補助業務～院外心停止レジストリ代行登録の取り組み～」

フロアからも質問があがり、他施設の取り組みを知ることができました。



続いて、実務講演では北海道医師会 副会長札幌秀友会病院 理事長 藤原 秀俊先生より「介護保険制度・主治医意見書の記載について」ご講演いただきました。

テキストを用いて主治医意見書の記載ポイント、注意点等をお話いただき、明日からの実務に役立つ内容で、参加者の方からは「介護保険について更に聞きたい、知りたい」等の声をいただきました。



シンポジウム「チーム医療の一員として他職種が医師事務作業補助者に何を期待するか」をテーマとして session1 では、病棟看護師、外来看護師、医事課の方より各施設、各職種からみた医師事務作業補助者についてご発表いただきました。

手稲溪仁会病院 師長 葛西 陽子さんより病棟看護師の視点から、「医師事務の声かけにより早めの対応ができる、医療の高度化に寄与する職種である」

北海道大野病院 渡辺 陽子さんより外来看護師の視点から、「医師事務の働きにより看護師が患者さんと関わる時間が確保できるようになった、専門性を意識し行動するようになった」

帯広厚生病院 医事係長 伊藤 里奈さんより医事課の視点から、「コスト算定に必要な情報を補える、カルテ記録の不備・相違点などのチェック機能となる」とお話しいただきました。

医学講演では、栗山赤十字病院 副院長 五十川 晋先生より消化器疾患についてご講演いただきました。

幅広い消化器疾患の中で、主に胃・十二指腸潰瘍、非アルコール性脂肪性肝炎についてお話しいただきました。

参加者からはわかりやすく、勉強になったと好評でした。

最後に、北海道支部 代表世話人 高橋 明先生に総括していただき実務者へ「専門職が専門性を生かせるためにサポートする専門職、患者の利益につながる役割」とエールをいただきました。



多数の方々の御協力により、無事開催することができました。

今後とも世話人一同、皆様のお役に立てる会を開催していきたいと考えております。

報告者：札幌白石記念病院 寺澤 由香
(日本医師事務作業補助研究会 北海道支部 世話人)